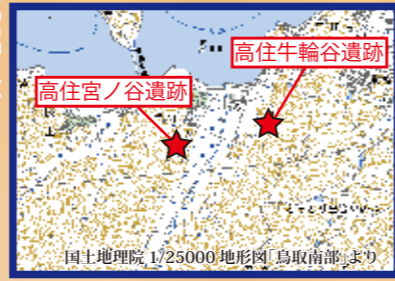


高住宮ノ谷遺跡 たかずみみやのたにいせき & 高住牛輪谷遺跡 たかずみうしわだにいせき



真実は、いつもひとつ！



調査は終了しました！ しかし、事件発生！ 犯人は…

12月25日に谷部の下層確認を終え、高住牛輪谷遺跡の発掘調査は終了しました。今後は発掘した遺物たちの整理作業を行います。水で洗って泥を落とすと大きな発見があるかもしれません。お楽しみに！

ところで…、発掘調査終了直前の12月18日にとある事件が発生しました。調査区の周囲が何者かに荒らされているのです！（下の写真2枚）。直径およそ40cmほど、深さは最大50cmもの大きさの穴が10箇所以上掘られています。事件発生時刻は前日の夜～当日明け方と推測されます。発掘調査自体に被害はなかったのですが、最後の完掘写真撮影直前のタイミングとは…。一体何者の仕業？

なんと犯人はイノシシでした！ 遺跡周辺に自生していたヤマイモなどの根茎類を求めて、掘り返したようです。その証拠に（写真ではわかりませんが）イノシシの足跡が周辺に残っていました。足跡は大小2種類あり、おそらく親子でやってきたのでしょう。まるで発掘調査が終了して、人の気配がなくなるのを察知していたかのようです。



高住牛輪谷遺跡（右下）の調査が終わりました。左上は鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センターが調査した倉見古墳群です。標高差はおよそ20mあります。



←遺跡のちょうど外周に沿って、斜面が掘り返されています。



→もっともひどい所はこのようにブルーシートの上にまで土が散乱しています。

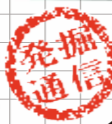


（公財）鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地

TEL：0857-51-7553
FAX：0857-51-7550

メールアドレス：
tottori-kyobun@kyobun.
sakuratan.com



昨年中に多くの発掘調査が終了し、残る遺跡の調査もまもなく終了を迎えようとしています。今後、さらに寒さを増すなかでも、最後まで全力で頑張ります。各遺跡の遺物整理も進行中です。これからの報告をお楽しみに！

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第81号 2016年1月22日

新年明けましておめでとうございます。皆さんは絵馬に願い事を書いて神社に奉納したことがありますか？

今回は、そんな「絵馬」についてご紹介いたします。



絵馬の使い方今昔

現在の絵馬は、描かれる絵や形などバリエーションに富んだものがあり、様々な願い事を祈願した後、神社に奉納されます。みなさんも初詣などで目にした事があると思います。

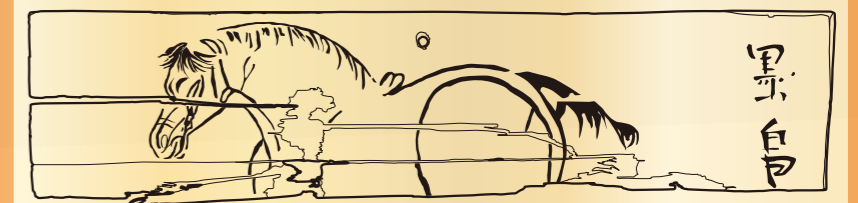
もともとの使い方としては、二通り考えられているようです。ひとつは、雨乞いもしくは晴れ乞いの祈願です。雨乞いの場合、馬を雨雲を表す黒色で彩り、晴れ乞いの場合は、太陽を表す白または赤色で彩ることで使い分けていたようです。

もうひとつの使い方としては厄払いです。昔、神様は人間の世界（この世）に来る時には、馬に乗って来ると考えられていました。日本では神様といっても大勢います。幸福をもたらすものから、災厄をもたらすものまで……。つまり災厄をもたらす悪神を神の世界へ帰すため、その乗り物として絵馬を使用したのです。

日本で最も古い絵馬は、7世紀中頃の物で、大阪市難波宮で発見されました。鳥取県内で最古の絵馬は、これまで倉吉市長谷寺にある絵馬群のひとつで16世紀頃の物でした。しかし、今年度の大柵遺跡の発掘調査で、10世紀頃と思われる絵馬を発見しました。この絵馬は、当時祭祀を行ったと考えられる川から見つかることから、悪神に帰ってもらう為に川へ流された可能性があります。



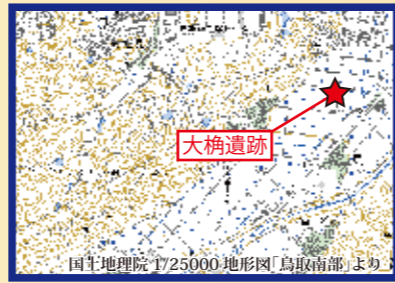
大柵遺跡出土の絵馬 撮影：奈良文化財研究所



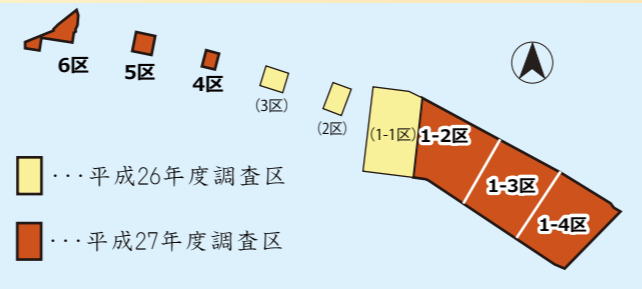
上の絵馬のトレース図 ※文字は現在調査中

大楠遺跡

だいかくいせき



1-2区では、古墳時代はじめ頃（約1,700年前）の土器がたくさん出土しました。溝の中に、さまざまな種類の土器が埋もれていたのです。下の写真は、高杯・甕・壺・器台（壺などの土器をのせる台）などが見つかった様子です。また、わずかですが桃の種も出土しています。



これらの土器は、割れた状態で出土しましたが、ひとつひとつの破片を丁寧につなげていけば、完全に近い形にまで復元できそうなものがたくさんあります。いよいよ現地での発掘調査作業もゴールが見えてきた今日この頃、その後の作業への期待がどんどん膨らんで来ています！



高杯など



壺・甕・器台など



溝の底からたくさんの土器が出土しました

プロジェクトD ~大楠の宝物を救え!~

1-3区では、調査の最終段階として土層観察用のアゼを掘り下げているところ、弥生時代前期（約2,400年前）の壺が姿をあらわしました。何とこの壺、くびれの部分に「つる」のような植物が何重にもぐるぐると巻きつけられているではありませんか！ つり下げて用いたのか、このような例はとても珍しく、土器の使い方を考える上でも貴重な発見です。土器には亀裂が入っていますがどうかこの状態で持ち帰り、保存処理をしなければ…。

そこで、調査員たちの知恵を結集したプロジェクトが始まりました。課題となるのは、取上げ・移動の際に土器が壊れないようにすることです。このために選ばれたのが、クリーム状に流し込むことができ、固まると発泡スチロールのようになる「発泡ウレタン」という素材です。写真のような手順でプロジェクトは進み、およそ2時間の格闘の末、無事に土器を持ち帰ることができました！ 保存処理が終わりましたら、ご覧いただきたいと思います。



①きれいに形を出していきます



②めらした新聞紙で表面を保護



③バケツで作った枠をはめて…



⑤固まりました！取上げです



④発泡ウレタンを流し込みます

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき



柄 拡大



続！ 続々と見つかる木の道具

見出しは誤植にあらず！ 松原田中遺跡から木の道具が続々と出土することは昨年11月の第79号でもお知らせしました。その後も、とくに調査範囲北東部の古墳時代前期（約1,700年前）の土層から、板や棒ばかりではなく、木の道具もたくさん出土しました。

現在鋭意洗浄中ですが、特選品（写真中）を速報します。

左は、槽（盤）と呼ばれる浅い容器です。底部外面短辺の一方に柄状の突起があり、その傍らには孔がひとつあいています。

中央は柄です。棒状の柄から上部に向かって一回り太い部分や放射状に左右に広がる部分があります。把手も別々の木を結合したものではなく一木を削り出し、さらに装飾的な割りも施されています（写真上）。農具などの実用品には手が込んでいますので、お祭りの道具かもしれません。

右端の匙は、身の部分に2個の孔が貫通していて、裏側には船底のように鋭い稜がついています（写真下）。口に入れると痛そうです。汁を逃がして貝だけすくったのでしょうか。木の道具だけではなく、まだまだ多くの遺物が整理作業を待っています。



槽（盤）

柄

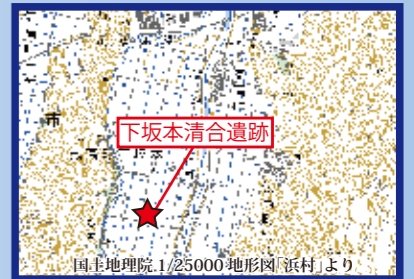
匙



匙 拡大

下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



ゲ、ゲ、ゲゲゲの・・・あれ？

出土品の中には、木筒のように墨で文字が書かれているものがあります。それらは物自体が黒ずんで見えにくくなっていたり、文字が消えかけていたりしており、何より残っていたとしても、活字体に慣れた現代人にとっては、昔の人が書いた崩し字を読み解くのは大変難しいものです。

そんな我々の強力なサポートをしてくださるのが、奈良文化財研究所の専門家の皆さんです。出土品をデジタルカメラで赤外線撮影し、パソコンのモニターに映し出される画像を調整しながら、文字を読み解いていくのです。右の写真で撮影中の遺物は、鎌倉時代の川の中から出土した「卒塔婆」です。卒塔婆とは木の板で作られた供養塔のことで、現代でもお墓の後ろに立てられます。梵字やお経が書かれているはずなのですが、表面が黒ずんでいるのでさっぱり分かりません。カメラの下に卒塔婆をセットして、ワクワクしながら待つことしばし、モニターをのぞく先生の「うーむ」という唸り声のあと、「・・・墨書は見えせんねえ」あれ？ どうやら長い年月のうちに墨が消えてしまったようです。残念！



さあ、いよいよ撮影です



どうですか、先生？